

せないし)。逆にいうと、ここはそういう事が学べる職場でもあります。理学療法士だからこそ教える事が出来るし柔整師が働く職場として最適かもしれません。

#### ◆理学療法士と柔整師の機能訓練の違い

それは神経系の働きの違いを意識しているかどうかです。例えば痛い膝を治療するのに柔整師は局所治療を施します。けれども何故その膝が痛くなったのか？根本を解決しないとぶり返すだけです。日常動作の姿勢に問題があるかもしれません。歩き方どうか？姿勢の崩れはないか？あるいはその原因が別の所にあるかも？筋肉の問題？などなどトータルで見てゆく必要があります。例えば中枢神経に障害が無くても運動学習(脳に働きかける)を意識することが必要です。理学療法士は「動作分析」を強く意識します。だからデイサービスのスタッフにもまず「姿勢」と「動作」をよく見るようにと言っています。その人の問題点を把握して、問題点を説明出来ることが大切です。本人に、家族に、ケアマネに、こういうアプローチをしますよとその場で説明できるように障害に対する知識を高めておく必要があります。利用者さんにとっては理学療法士も作業療法士も柔整師も関係ありません。柔整師だから脳疾患がわかりませんとは言えないのです。

#### ◆脳疾患について

ルーストでは月イチで全員参加の勉強会を開いています。脳疾患にはいわゆる脳卒中の運動マヒだけでなく高次脳機能障害があります。目に見えるマヒだけでなく、そもそも自分の手足が

感じられない。絵を書かせたら自分の体半分の絵しか描かない。空間的な(右の脳をやられると左半分認知しない)感覚が無くなるというものです。そして実は左マヒの人の半分は持っている障害でもあります。わかりやすい障害ではないのですがこれが原因で動作機能が回復しないケースが多く見られます。ルーストの利用者さんは、統計を取ると6割が脳卒中。脳疾患。残り4割が他の疾患。骨や整形疾患となります。「うちの柔整師には脳疾患に対応できるよう特に勉強してもらってる」と今井さんは言います。表面的な機械運動だけではなく個別性を重視した中枢神経に対する理解が求められています。

#### ◆市原ルーストの経験

ルースト北野を立ち上げて1年。スーパーのイトーヨーカ堂から声がかかりました。千葉の市原店にテナントとして入ってくれないか？というのです。魅力的な話ではありましたがテナント料はとでも払えず相談したのが筋トレ機器のネバーランド。ネバーランドが経営しルーストは運営サポートということでスタートしました。当初は年間5店舗増やす壮大な計画で今井さんも全力で取り組んだのですが景気後退で今年5月市原店は閉鎖。残念な結果となりました。けれどもこの事業に市原市役所が興味を持ちネバーランドは特定高齢者運動指導の市の事業を受託。オリジナル体操も作り別場所で営業することとなりました。今井さんにとって貴重な経験となりました。

#### ◆今井さんの日常

市原以外にも今井さんの活動



ビデオで20分体操



ベッド上のストレッチ中心



施設長もスタッフも若い！



ルースト片倉



マシン・グループと